

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

ムラタのCSR Reportでは、従業員の顔が見えるということが、大きな特徴です。今年は特にグローバルを意識して顔を見せているように感じます。昨年「事業とCSR」に踏み込んだ記述をされましたが、今年はさらに一歩進んで社会課題の解決を指向されていることを明確にされています。CSR Reportにあるトップコミットメントにそのことが明記され、また記事でも取り上げられています。企業の社会的使命を明確に意識しながら、新技術や製品を開発されていくことはCSR経営を推進する上でとても重要です。今後も村田製作所グループの事業活動が、社会へ良い影響を与えることを期待したいと思います。

今年度のCSR Reportでは、2014年に創業70周年を迎え、更に発展していこうとするムラタの方向性が感じ取れます。このあたりについて、中長期的な経営計画や具体的な将来像、そこに至る過程を示したロードマップ的なものを明示することで、社会に対するコミットメントとして示されれば、より一層理解が深まるのではないのでしょうか。詳細な情報はWebにおいて開示されていますが、冊子版においても全体像の情報を開示されれば、わかりやすく視覚化された情報提供としてレベルがアップすると思います。また今年は、本文の記事の中に、CO₂排出量などの関連する重要な数値が記載されています。これにより記事に書かれた項目の具体的な活動状況が見えるようになりました。この点についても、全体計画の中の位置づけを明確に指摘されれば、内容がもっとよくわかるようになると思います。

本報告書の前半は会社事業の紹介であり、後半がCSR Reportになっています。会社の内容を理解してからCSR情報を読むという構成になっており、初めてムラタの報告書に触れる方には分かりやすいかもしれませんが、毎年の読者に対してはもう少し踏み込んで説明されることも必要と思います。そのためには、前半に示された企業の全体像と、後半に記載されたそれぞれのCSR活動の記事との間の関係を明確にすることと、経年変化について記述することが大切です。現在、世界的に注目されている統合報告書は、事業活動とCSR活動を簡潔に連携して報告することを提唱しており、ムラタの報告書もこのような方向へ展開されるとより有効な情報開示手段になると思います。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏